

ケガの経験が 自分を医者にした

中学からバスケットボールをしており、将来はスポーツに関わる仕事に携わりたいと考えていました。大学時代にバスケのプレー中、膝の靱帯損傷、足の骨折とケガを経験しましたが、治療を受けることで競技に復帰できました。ケガがもたらす不安を身をもって体験したことで、医師としてスポーツ選手の治療に取り組みたいと思い、スポーツドクターの資格を取得しました。

2019年6月から、富山県バスケットボール協会医科学委員を委嘱され、高校バスケットボールの現場救護に参加しています。今後はプロスポーツのチームドクターや、小・中・高校生のバスケットボール選手に対するメディカルチェックやケガ予防の啓発活動に取り組んでいきたいです。

岩澤 智宏 医師

自分が手術した患者さんが競技復帰して、大会でよい成績をおさめているのを見ると、ほっとします。

県体協スポーツクリニック委員長
委員として34年

体育協会の委員会事業として、整形外科医・内科医による一般の方向けのスポーツ障害相談を、1985年以来月に1度富山県総合体育センターで行っています。選手のケガや故障の状況を正しく理解してもらい、今後につなげるよう指導することを大切にしています。

整形外科センター
西能クリニック院長 山田 均 医師

高校入学時から外来で診ていたバドミントン選手の姉妹が、インターハイで姉がシングルス・姉妹でダブルス優勝を決めたのを見て、胸が熱くなりました。

オリンピック・パラリンピック へ行く選手を支えています

長年、富山県障害者スポーツ指導員養成講習会の講師を頼まれていたこともあり、2011年に日本障がい者スポーツ協会公認の障がい者スポーツ医の資格を取得。さらには日本車いすテニス協会のチームドクターとして、パラリンピックやアジアパラリンピックを目指す選手たちが大会に出場できるかどうかのメディカルチェックを行っています。

富山県のアスリート育成やスポーツ振興、環境整備のために設置された「2020東京オリンピック・パラリンピックとやま戦略会議」の委員として、また県内アスリートの競技力向上を目指す「TOYAMA アスリートマルチサポート委員会」の委員としても活動しています。

スポーツドクターが自分でスポーツをすることで、より適切な指導ができるのでは
と思い、4年前にマラソンを始めました。すると食事や休養、練習方法など、悩みにたくさんぶつかりました。内科にはパフォーマンスの低下を理由に受診されるスポーツ選手がいますが、そういった方々に自分の経験を活かした指導や治療ができるよう心がけています。

内科医だから
できるアプローチ

亀井 哲也 医師

好きなスポーツはマラソン、テニス、スキー！



Iwasawa Tomohiro



Kamei Tetsuya



Yamada Hitoshi

五省会 7人の
スポーツ
ドクター

五省会はスポーツに関わる
全ての人を応援しています。



Maeda Akio

前田 明夫 医師

2015年から冬のスキー国体富山県選手団に帯同しています。来年は「とやま・なんと国体2020」開催！盛り上がり期待しています。

スポーツドクターの仕事

スポーツドクターとは、スポーツを主な原因とする障害・外傷や疾病の診断・治療にあたる専門の医師です。

通常の診療ではケガの完治を考えて治療します。しかし、スポーツによるケガの場合、選手が競技を継続していくために、完治させることよりも先に、競技に支障が出ない治療方法を選ぶ場合があります。スポーツ選手がその競技においてどの筋肉をどのように動かすのか、どの筋肉や骨、靱帯に最も負荷がかかるのかといった知識を持ち、ケガをさせない管理を行うのもスポーツドクターの役割です。

五省会の7人のスポーツドクターも様々なフィールドで、幅広くスポーツ選手をサポートしています。

西能 健 医師

好きなスポーツはサッカー、野球。スポーツは見るのもやるのも好き！



Sainoh Takeshi

遠征も一緒！
カターレチームドクター

プロサッカークラブ、カターレ富山のチームドクターとして、所属選手のスポーツ障害・外傷の予防など、日頃のコンディショニングやメディカルサポートに取り組んでいます。また、ホーム試合はもちろん、アウェイの試合でも全国各地に遠征する選手に帯同しケアを行っています。チームドクターに就任してプロスポーツの現場の表と裏を見ると、想像以上にシビアな世界でした。当院で手術をした選手が劇的なシュートを決めてくれた時は感動！今後はクラブチームとのより深いラポール(信頼関係)の形成を目指していきます。

橋口 津 医師

好きなスポーツはテニス！K-1のリングサイドドクターとして、ボブ・サップのデビュー戦に立ち会いました。



Hashiguchi Shin



Dougo Takahiko

堂後 隆彦 医師

大学時代はアルペンスキーをしていました！

早期復帰への取り組み

ケガの治療だけではなく、予防や治療した後のスポーツ復帰まで関わりたいと思いスポーツドクターの資格を取得しました。今後はインターナルブレイス(体内装具)という新しい概念を取り入れた手術治療など、より早く復帰が可能な治療法を進めていきたいです。

大特集

医療の力

アスリートを支える

健康への意識の高まりとともに、世代、性別、種目を問わず、スポーツ人口が増加傾向にある現在、スポーツによる外傷や機能障害でお悩みの方がたくさんいらっしゃいます。今回はさまざまな分野でアスリートを支える医師「スポーツドクター」と、「スポーツリハビリ」をご紹介します。